

独立行政法人シンポジウム
議事概要

○開催日時：令和8年2月5日（木）14：30～17：05

○開催場所：中央合同庁舎第2号館地下2階講堂

○プログラム内容

・パネルディスカッション

テーマ「人材不足に対応する法人マネジメント～人材戦略・DXを中心に～」

<パネリスト>

宝野 和博 物質・材料研究機構 理事長

輪島 忍 高齢・障害・求職者雇用支援機構 理事長

牧元 幸司 農林漁業信用基金 理事長

澤田 道隆 独立行政法人評価制度委員会 委員長（花王(株)特別顧問）

河合 晃一 独立行政法人評価制度委員会 委員（筑波大学人文社会系准教授）

清水 剛 独立行政法人評価制度委員会 専門委員（アライン(株)代表取締役CEO）

<司会>

栗原 美津枝 独立行政法人評価制度委員会 委員長代理兼評価部会長

（(株)価値総合研究所代表取締役会長、

(株)日本政策投資銀行設備投資研究所シニアエグゼクティブフェロー）

○開催趣旨

- ・ 政策課題等の複雑困難化や人的資源の制約が顕在化する中、独立行政法人が、環境変化に対応しながらも、質の高い行政サービスを継続的に提供していくことは極めて重要であるところ、法人における人材不足は喫緊の共通課題となっています。今回は、人材不足に対する打ち手である人材戦略とDXの取組を中心に、法人に求められるマネジメントについて議論を深め、法人横断的な改善に資することを目的として、「独立行政法人シンポジウム」を開催いたしました。

○議事概要

- ・ 冒頭、阪本克彦総務審議官から、少子化や労働力人口の減少の影響により、公的部門でも人材が採れないといった深刻な状況が広がっている中、本シンポジウムでの事例紹介・意見交換が、人材不足に対応するための法人マネジメントに役立つことを期待する旨の挨拶が行われました。
- ・ パネルディスカッションに先立ち、独立行政法人評価制度委員会の栗原美津枝委員長代理兼評価部会長から、委員会が期待する独立行政法人のマネジメントとして、①法人の将来像を明確にしたマネジメント、②環境変化への機動的対応を可能とするマネジメント、

③パフォーマンス向上と信頼確保を念頭に置いたマネジメント及び内部統制の3点を紹介するとともに、パネルディスカッションのテーマの趣旨について説明しました。

- ・ パネルディスカッションでは、「人材不足に対応する法人マネジメント～人材戦略・DXを中心に～」をテーマに、パネリストとして、独立行政法人から、物質・材料研究機構（NIMS）の宝野和博理事長、高齢・障害・求職者雇用支援機構（JEED）の輪島忍理事長、農林漁業信用基金の牧元幸司理事長、独立行政法人評価制度委員会から、澤田道隆委員長、河合晃一委員、清水剛専門委員に御登壇いただき、司会の栗原委員長代理兼評価部会長の進行のもと、まず各法人から取組事例の紹介が行われました。

NIMSの宝野理事長からは、優秀な研究人材確保が困難となっていることを最優先で対処すべきリスクと位置付け、若手・外国人研究職、事務職、エンジニア職の採用強化、評価に基づく処遇や給与改定といった取組を進めていることのほか、理事長のトップダウンによる、完全ペーパーレス宣言・事務複合機の50%削減・生成AIの導入などのDXに関する取組について御紹介いただきました。

JEEDの輪島理事長からは、令和5年4月に策定した「人材確保・育成方針」のもとでの事務職と障害者職業カウンセラー職での地域限定型採用の実施、令和8年度からの全国型と地域限定型の転換制度の運用、キャリアパスの明示、ジョブローテーション等の取組のほか、働きやすい職場環境の整備、職員の生産性向上を目的とした生成AI専門委員会の設置、職員向けの生成AIガイドラインの作成等、全国143施設、職員数約7,000人の組織としての体系立てた取組について御紹介いただきました。

農林漁業信用基金の牧元理事長からは、令和5年5月に策定した「人材の育成・確保に関する方針」のもと、外部コンサルも活用しながら職員へのヒアリングやアンケート調査による課題の洗い出し、役職ごとの役割・目標の明確化、人事委員会の設置、職務体系整理によるキャリアパス明示等といった取組のほか、PJMO支援業者の活用や、業務の見える化・課題の洗い直しから慣習的な業務の見直しなど、マンパワーが限られる中、着実に取組を実施していることや、業務を安定的、継続的に実施するためには改革が不可欠との考えについて御紹介いただきました。

その後、登壇委員からの質問をきっかけに、人材の定着を図るための人事評価の活用に向けた工夫、DXを進める上での理事長の役割、コロナ禍を境に「常識の反転」が起こり、労働力の流動性が高まっている状況下における人材確保・育成や人事制度の在り方などについて、活発な意見交換が行われました。

- ・ 最後に、平池栄一行政管理局長から、環境変化が厳しく、政策課題が多様化・複雑化

する一方で、人手不足にも直面し、難しいかじ取りを迫られる中、各法人において日々御奮闘いただいている点に感謝を述べつつ、独立行政法人評価制度委員会と総務省行政管理局として、引き続き各法人関係者の方々とコミュニケーションを取りながら、後押しを継続的に取り組んでいきたい旨の閉会挨拶を行いました。

